



集中コース秋の部報告

# 『山造りの手順をまなぶ』

建物を作るときも、道路工事のときでも、設計から施工という手順があります。山仕事でもこれは同じで、まず現況調査、そして施業の指針づくり、それから施

業という流れです。指針を作った段階で山主さんの最終的な了承を得ることになります。どんなことばや数字を基準にして説明したらよいか難しいところ。



受け口は意図した向きにできるまで修正を繰り返す

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065  
編集 早川清志  
題字 島崎洋路

KOA森林塾では、島崎先生が言われている「高さの二割」の間隔ということを基準に山を見て数字に表しています。人工の一斉林の場合、樹種も年齢も同じですが、何年かたつうちに一本一本の木の成長の差が少しづつ現れてきます。そこで、競争に勝ち残り、林冠を形成する木を上層としてその林分を代表させるわけです。

山主さんが十人いて、山が十通りあるかもしれませんが、将来どのような山にしたいか。そして、どのくらいの頻度で手を入れられるのか。さらに、間伐した木は利用するのかしないのか。などが施業の方針を決めるポイントになるのですが、かかる費用をどうするのかということも考えなくてはならない重要な点になります。

冬型の気圧配置の中、長野県内や愛知県を中心に十四人の方が参加してくれました。あいにく二日目に冷たい雨に降られ、少し予定を変更をしたために保科先生に立木の伐倒を見ていただくこ

とはできませんでしたが、かわりに島崎先生の樹木分類に十分時間をかけられましたし、アイの作り方も教えていただく事ができました。いつも受け入れ側が自問するところです。お仕事を休んで、参加料や交通費や宿泊費をかけて、連休に入るのに残す家族に後ろ髪を引かれつつ、おいでいただいた、その甲斐はあったでしょうか。何か持ち帰っていただけませんか。あったでしょうか。ぜひ、山の見方を自分のものにしていただき、今後十分分使っていただければと思っています。復習のときに何か疑問点などあれば遠慮なくご連絡ください。



ヒワイ(Y)なヒノキ、エッチ(H)なサワラと言っているわけではありません

## 集中コース秋の部

10月31日(木) ~

11月2日(土)

### 一日目

9時 島崎先生の山小屋に集合。保科先生のあいさつ、自己紹介、日程説明と班に分かれての直径巻尺つくり



最年少参加19才。門前の小僧は覚えが早い

10時30分  
ますみヶ丘の市有林をお借りして測樹作ったばかりの直径巻尺で胸高直径を計る。また樹高はワイゼの測高器で

12時15分 小屋に戻り昼食。外は少し寒いが中はまきストーブで暑すぎる。外の公園でが多数派でした

1時 班ごとに現況調査表の作成

4時 島崎先生が高遠町で小学生への講演を終えて参加。あいさつと現在の日本の森林の状況についての話



大切に食べば一生もの。まあプロならそういうわけにはいかないけれど



そういえば今日11月2日はクッキーモンスターの誕生日



「水平に」を心がけましょう



2班は4アールのプロット内に20本のテープが巻かれた



家に帰ったら今度はご主人に教えてもらってね



ハヶ岳クリタケ

**5時20分** 本日終了  
**6時20分** 交流会が始まる。ワンパターンの屋外での焼肉。少し寒くてビールのおしゃれ行きは悪かったけど、おなか一杯食べてもええかな？  
**8時30分** 終了、解散

**二日目**  
**8時30分** 鳥崎先生の山小屋に集合。ぼつぼつと雨模様。予定通り林に出ての伐倒は難しそう。先生方のあいさつ、日程変更の説明のあと樹木分類の方法について  
**9時30分** 小屋の西側の広葉樹の林で樹木分類。ヒノキはY、サワラはH、覚えていきますか  
**10時30分** イントラ椎原の説明の後、小屋横でチェーンソーの始動および

び玉切りの練習。押し付けたらせずに自重で切れます。力を抜いてホールドしてくださいね。バーを挟まれても慌てない事。まずはエンジンを止めてはまず方法を考えよう  
**12時** 昼食。雨止まず、今日はみんな小屋の中  
**1時** 間伐および保残木マーク法の説明。外は雨、中はストープでぼかぼか。お腹も一杯で。ハッ、いかに  
**2時30分** 合羽を着て外に調査した現場で保残木にマーク。ここは地位が良さそうなのでヘクターあたり四百〜五百本が保残木となるようだ  
**3時30分** 小屋に戻りロープの端末のアイ加工。巻き差しと割り差し(巻差し) 両方覚えるのが大変

な方は割り差しを主に  
**5時** 両先生とも都合で参加は今日

まで。あいさつ。本日終了  
**三日目**  
**8時30分** 鳥崎先生の山小屋に集合。雨も上がって薄日が差している。少し寒い今日は伐倒ができそう。さっそくますみヶ丘財産区有林の現場へ。班に分かれて伐倒開始。椎原さん率いる二班。癖の悪いアカマツに挑むもかり木に。チルホールなど用いて安全にはせず。各班一人一本以上倒せたでしょうか。続きはまたの機会に。あつという間に時間は経つ  
**12時** 昼食。少し冷えてきた。お昼もそこそこにイントラ大野が、ぶり縄開始。身軽に登る方、お腹のお肉が邪魔になった方も。結び方忘れた方、資料送ります  
**1時30分** 林内作業車「やまびこ号」と、携帯ウインチ「ひつぱりだこ」で集材のデモ

**1時50分** 各班に分かれチェーンソーのメンテナンス。目立て。終わって小屋に戻る  
**2時30分** 感想、質疑応答  
**3時10分** 終了。お疲れ様でした。けがも無くなによりでした  
**1時50分** 各班に分かれチェーンソーのメンテナンス。目立て。終わって小屋に戻る  
**2時30分** 感想、質疑応答  
**3時10分** 終了。お疲れ様でした。けがも無くなによりでした

参加者/飯沼さん、小栗さん、片山さん、清水さん、庄野さん、田幸さん、知見さん、中沢さん、西村さん、平林さん、堀田さん、松村さん、三澤さん、山本さん  
 講師/保科先生、鳥崎先生  
 スタッフ/石原、大野、後藤、椎原、平林、坂野、早川

**次回以降の予定**  
**第十五回「見学と復習」**  
**11月16日(土)**

保科先生の山林見学チームと伐倒チームに分かれます。見学は入笠のカラマツ林はじめ何ヶ所かの保科山林を見学

させていただけます。最初の入笠カラマツ林は先生に解説していただけたまま以降は早川の案内になります。ご了承ください。伐倒チームはますみヶ丘財産区有林をお借りして。担当は坂野ほか。ともに  
**8時30分** 鳥崎先生の山小屋に集合。

**第十六回「炭焼き」**  
**11月30日(土)**

今年最後です。移動式炭化炉で炭焼き。火入れのあとそば打ちもやってみましょう。夕方からは忘年会です。寮開けは翌朝の予定です。火の番できる方は小屋で朝までおつきあいください。



わたしの森林履歴書、動機編  
 小林 博充

濡れ落れ葉  
 あと四年もすれば定年。その後、小淵沢に住むこと考えています。  
 五十才にならんとする時、専業主婦のかみさんが、専業サラリーマンである私に定年退職後、何処で何をして暮らすつもりかと詰問したことがあります。濡れ落れ葉という言葉がはやりだした頃だったのでしようか。山歩き、スキー、自転車などアウトドア系という趣味は有っても、毎日遊んで暮らしているわけでもなく、はたと困ってしまいました。どこに住むんだらう？  
 東京生まれ、東京育ちですが好きで首都圏に住んでいるわけでもありません。せっかく静岡県焼津市に生活の根を下ろしたのに、東京に呼び戻され逆リターン転勤で住んでいるだけといっているだけで



上ブロンと実践主義の違  
い、日常生活に根ざして  
いるかどうかの違いで  
しょう。

退職後に引継げること  
は家庭菜園と日曜大工ぐ  
らいです。家庭菜園はか  
みさんと共通の趣味、か  
みさんは作付け計画から  
ハーブ栽培、ガーデンニ  
グと進化していきまし

が、私は耕作、雑草取りと力  
仕事に留まったまま、土作り  
をこなすのが精一杯で進化を  
していません。時間が手に入  
ればたっぷり楽しめそうで  
す。本格的に楽しむには、首  
都圏では無理です。住み慣れ

た焼津の住宅団地でも無理の  
ようです。かくして、移転先  
探しの旅が始まり、紆余曲折  
の結果、小淵沢に落ち着いた  
というわけです。

原風景

濡れ落ち葉回避策をかみさ  
んと話すうち、二人とも原風  
景は野山であると確信を持つ  
ようになりました。かみさん  
は焼津の生まれ。幼いころ、  
みかん山に遊びに行き一日過  
ごしたことを印象深く記憶し  
ています。私は東京下町の長  
屋で育ちましたが、毎日のよ  
うに川向うの埋め立て地の  
原っぱで遊んでいました。肥  
え桶に落ち隅田川で服ごと  
洗ったが、匂いが落ちずおふ  
くろに見破られたことを懐か

う。週末になれば、車に寝泊  
りし、東北へ足が向いてしま  
う不良夫婦です。定年退職と  
もなれば、首都圏に住む必然  
性が無くなってしまいます。  
やりたいことも住みたい場所  
も真っ白なのです。次々に退  
職していった先輩方の話しを  
聞くと当初のゴルフ三昧のほ  
とほりも過ぎるとやはり濡れ  
落ち葉状態に陥っています。  
かみさんと話しをすればする  
ほどあせりを感じてしまいま  
した。

かみさんは子育てに目処が  
たった十年ほど前から、しつ  
かり生活に根付いた趣味と人  
の和をちやっかり築いていま  
した。專業サラリーマンとは  
いえ、会社人間に陥らないよ  
うに生きてきたつもりでし  
た。しかし、通勤の拘束が外  
れ渴望していた時間を自分の  
ものにした瞬間、やはり、先  
輩方のように時間を浪費する  
はめになりそうです。どう見  
ても、軍配は專業主婦である  
かみさんに拵がりました。机

しく思い出します。高校で  
山岳部に入ってから、山と親  
しむようになりました。山歩  
きといつても雪山、岩嶺に挑  
戦、百名山を制覇などといっ  
たはなばなしのものではな  
く、遠景の山や地形図を見る  
とそこは何かがあるのか、どん  
なところだろうかと好奇心が  
次々に湧いてくる子供じみた  
冒険心によるもので、とにかく  
山に入っていれば気分は  
上々というタイプです。

お互いの原風景が分かる  
と、山のふもとで、自給自活  
を取り入れた生活へ転換する  
のがふさわしく思え、森林が  
身近な存在になりました。

森林塾

高山植物の名前は多少知っ  
てはいても、樹木の名前はダ  
ケカンバ、カラマツ、ハイマ  
ツぐらいしか知りません。せ  
めて名前ぐらいは知りたいと  
思っている矢先、カルチャー  
講座で森の案内講座があるこ  
とを知り、問合せると人が集  
まらず中止、森林インストラ  
クター養成講座ならあるとの  
返事でした。

森林インストラクターとは  
何かとも知りませんでした  
が、森林について解説をして  
くれるというのでとにかく受  
講をしてみました。森林にお  
ける生態系循環や樹種の分布  
など、学生時代の生物のおさ  
らいとその延長のようで気分

は高校生に戻り、結構はまっ  
てしまいました。いけいけど  
んどんと工場で生産活動にた  
ずさわっていたものとして  
は、林業の話は時間軸違い  
に戸惑いながら、そのスケール  
の大きさに魅了されまし  
た。林業の作業は工場のもの  
づくりとは、また一つ違って  
面白そう、自分でもやってみ  
たいと触発されました。

樹木の図鑑を借りて図書館  
に行き、目にとまったのが鳥  
崎先生の『山造り承ります』  
の一冊でした。林業や森林の  
解説本が並んでいる中、タイ  
トルに引き寄せられバラバラ  
めくると他の参考書にはない  
肌の温もりを感じ、借り出し  
一気読みをしました。森林イ  
ンストラクター養成講座の入  
門講義とは遙かにかげ離れた  
世界の話でした。しかし、  
講座では林業の現実が厳しい  
との講義でしたが、鳥崎先生  
みたいな人がいるならまだま  
だ捨てたものではないぞと印  
象深く残りました。

養成講座を終了し、講師の  
先生紹介で鉈、ノコを持つ  
て、わくわくしながら里山林  
作りや山の手入れのポラン  
ティアに参加するようになり  
ました。ポランティアに参加  
して分かったことは、一部技  
術的に高いメンバーのいるグ  
ループはありますがほとんど  
は、興味と熱意は有れど何を  
するべきなのか分からない。

山と私  
こんにちは。今回リレ  
エッセイを書かせていただき  
ことになりました。庄野良香  
です。秋の集中コースに参加  
して、昨日帰宅したばかり  
で、まだ興奮冷めやらぬ状態  
です。つたない文章ですが、  
皆さんと気持ちを共有できれ  
ば嬉しいです。



森林塾がくれたテーマ  
庄野良香

まとめ役はいても指導者がい  
ないといった状況です。鉈、  
ノコを持って遊びに行くには  
良いが、森林に本格的に係  
わっていくには物足りなさが  
ありました。一人親方は無理  
としても、半人前親方の実力  
を持ちたいと思ひ森林塾に通  
うようになったのです。

私は東京生まれの東京育ち  
です。でも山が大好きです。  
大好きだといつても、登山を  
するわけでも、エコロジーの  
運動をしているわけでもあり  
ません。ただただ、好きなん  
だからです。山は私の心の故

郷といつてもいいかもしれま  
せん。「東京生まれなのに？」  
と思われるかもしれませ  
ね。実は親の実家が広島  
の山奥で、私は子どもの頃休みの  
たびに長期間そこで過ごし、  
すっかり山の子になっていま  
した。祖父と叔父は木工で獵  
師、家族全員で畑仕事もして  
いました。私その田舎に行  
くようになった当初は、まだ  
ガス・電気・水道もなく、子  
どもの私も井戸から水を汲ん  
だり、薪を割って風呂釜にく  
べたり、なんてことを遊びな  
がら習いました。

山は私にとって何でもある  
魔法の場所でした。トンビの  
飛行軌跡がおもしろく夢中  
になって後を追ひ、どどん奥  
に入っていく山道は、ちよっ  
とした冒険の道でした。偶然  
見つけた小川で私が捕ってき  
た魚や、叔父が撃ってきた獣  
はおいしい夕食となりまし  
た。散歩がてら摘むよもぎ  
は、嬉しいおやつになりまし  
た。そして山に放された獵犬  
たちが獲物を追い込む様子  
を、吼える声の位置で想像す  
るのは、ちよっとしたゲーム  
でした。そして何より、午前  
中の山のちよっとひんやりと  
白っぽい霞む空気が、いつも  
私を抱き取ってくれているよ  
うな気がして、とても落ち着  
きました。

その田舎からも、祖父、叔  
父の相次ぐ死によりすっかり



足が遠のき、私も成長しました。その頃叔母が、「最近のししが畑を荒らして困る」と話しているのを聞き、「え、なんでだろう?」と思ったのを記憶しています。また、叔父が存命中は毎年届いていたキノコ類が、ある年からはたつと来なくなり、味覚的にも寂しくなりました。そうやって山は、私の思い出としてだけ存在になっていき、あとは東京での忙しい毎日で十数年経ちました。

再び山へ

そんな私も仕事をしながら、アウトドアスポーツを楽しむよつになり、ある年勤め先からの独立をきっかけに、数ヶ月上伊那郡の高遠町に住む機会を得ました。知人の別荘に犬と共に住まわせてもらっていたのですが、都会暮らしに疲れきっていた私に、山の空気や木々の葉が揺れる音、川の流ればとて新鮮で、心身に染み込む葉となり

ました。そうやって心身の疲れを山に癒してもらい、また東京に戻った私は、「いつか山に恩返ししたい」と思うようになっただけです。とはいえ、私は山の何たるかを全く知らない素人だし、日本の山が抱えている重大な危機など、何も知りませんでした。

私が、日本の山が抱えている危機の一端を知ったのは、今年の春に読んだある本によつてでした。それはアイヌの熊撃ち猟師の語り書き自伝で、そのなかで北海道の山の状況が書かれていたのです。熊は元々人間とうまく住み分けることで、山の恵みを共有して生きてきた。その熊が里に降りてきて人を襲うようになつたのはなぜか。それは山に熊の食べられる植物がなくなつてしまつたから

。そのとき、私は広島の田舎でいししが畑を荒らすという話を、はたと思い出しました。そしてまた思ったのです。「山にはたくさん木があるのに、なぜ動物の食べ物が無いの?」と。

森林塾のことを知ったのは、絶妙なタイミングでした。その熊撃ち猟師の本と同じ時期に買ったのが古民家について雑誌で、そのなかで島

崎先生のお話と森林塾の事が紹介されてきました。「切つて切つて切りまくれ」という言葉はとてショックでしたが、同時にそれまでずっと頭の中に広がっていた霧のような疑問に、さつと光が差し込んだ気がしたのでした。広島に畑を荒らすいししが。叔父が亡くなつた途端に収穫されなくなつたキノコ。北海道の人食い熊...「そうか、山に木がありすぎるんだ。人が山に手を入れなくなつたからなんだ」と、やつと筋書きが読めたのです。そして以前から抱いていた「山に何か恩返しをしたい」という気持ち

を、どのような方向で実行すればいいのか、ひとつの指針を得たような気がしました。なんとかが仕事をやりくりして、秋のコースに参加することができ、本当に良かったと思つています。何も知らなかつた山の事を、ほんの一端ですが知ることができました。そして今頭にあることは「私はこれから何をしたいか、いいだろう」という新たな課題です。日本の山を立ち直らせるための方向性は、森林塾で学ぶ事ができました。今は具体的に私が今の能力と技能でできることは何だろうか、さらに考えています。知れば知るほど、自分の知らな

さ具合を知ります。でもその度に、「では何が出来るか」が

少しだけ具体化していくのです。そのためにも、もつと学びたいと、今は切に思っています。

とりあえず現時点の私にできることは、少しでも多くの人に山仕事の価値を知らせること、次世代を担う子どもたちに山を愛する心をもってもらつこと。それくらいです。

マスコミの仕事と、子ども相手のボランティア活動という私のライフスタイルに、これからは「森林」というテーマが加わりました。そのテーマを与えて下さつた島崎先生、保科先生はじめ森林塾スタッフのみなさまに、心からお礼を申し上げます。そして、これからいろいろと教えて下さいね。とりあえず、子ども達に尊敬されるような木登りができるように、近所の木で練習します!

。秋のコースに参加することができ、本当に良かったと思つています。何も知らなかつた山の事を、ほんの一端ですが知ることができました。そして今頭にあることは「私はこれから何をしたいか、いいだろう」という新たな課題です。日本の山を立ち直らせるための方向性は、森林塾で学ぶ事ができました。今は具体的に私が今の能力と技能でできることは何だろうか、さらに考えています。知れば知るほど、自分の知らな



コラム

写真を撮りに行った。と書いても妻の父親についていたのだけれども、伊那から高遠を過ぎて長谷村に来て黒河内川に沿って上つていくと谷の正面に鋸岳が見えると

ころがある。よく見つけたなあと思つた。鋸岳は急峻な峰が続き、なんだか外国の山の力強さを感じる山だ。かつこよく尖つて頂が白い砂で夏でも輝く甲斐駒ヶ岳の隣にあるので損をしている。

大型のカメラで暗幕を被つてピントを合わせるようなものなので段取りにも時間がかかる。私は撮ることよりも今のこのきれいな日を楽しむ。山はこのところの冷え込みで雪がついてい

る。里の木々は実は本当の紅葉の見ごろの日を過ぎてい

る。しかし、今度はからまつが色づいてきた。からまつは新芽が出るのが遅く、紅葉も遅い。だから好きじゃないと父は言う。写真を撮るときにタイミングが合わないというのだ。全部が一度に紅葉したらさぞや気持ち悪いと思

うけど。まあ、いい。秋は穏やかに暮れている。凍て付いて休眠に入つた草もいる。シジユウカラなどの小鳥はにぎやかに葉の落ちた枝を転がるように渡つて行く。可愛い。

赤い実がついているつるがある。葉が落ちてい

ジュースの香りだから?あらぶどうもなつてる。車から降りてすぐのところでもこんなに嬉しい。すばらしい自然がある。スーパーでパックに並べられた肉を買うときも、こつした自然に自分たちが生かされていることを忘れたくない。お陰様なのだ。嬉しくなる。

大きな風景の中にいたら思

い出した。十一月からは小鳥のえさ台を出すんだつた。うちは薪を割つたときに見つけた虫メニユー。高級料亭(和風だつたのね)だ。そして小鳥はそこにお土産を落とす

ていく。まいど!庭木が殆どない我が家はお土産から生える木を楽しみにしています。何年かたつと小鳥食堂横丁ができる仕掛けです。

「カブ夫」

おわりに

雪が降り、氷が張り一足飛びに冬です。風邪ひかないように気をつけてください。大根と野沢菜をつけて冬の準備をすなわち。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp sh-sakano@koanet.co.jp mi-tsuboki@koanet.co.jp 携帯:0902-53-26375 (開催日) H.P.http://www.koanet.co.jp

